

26年5月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 4月20日～ 26年5月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は16社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	6月	7月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 17.9	△ 10.7	△ 14.3
	マツ	△ 27.3	△ 27.3	△ 27.3
	広葉樹	△ 21.9	△ 21.9	△ 31.3
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 8.3	△ 4.2	△ 8.3
	マツ	△ 13.6	4.5	△ 13.6
	広葉樹	△ 7.1	△ 28.6	△ 14.3
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 28.6	△ 28.6	△ 28.6
	マツ	△ 25.0	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	△ 31.3	△ 37.5	△ 40.6

チップ用原木の入荷は全ての品目において減少傾向で推移。

スギ・ヒノキ及び広葉樹原木の消費は減少傾向で推移、マツは5月の減少が6月の横ばいを経て7月には減少に。

チップ用原木の在庫は全ての品目において減少傾向で推移。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/5月	6月	7月
スギ・ヒノキ	17.9	10.7	7.1
マツ類	16.7	12.5	8.3
広葉樹	12.5	3.1	0.0

原木価格は、スギ・ヒノキ及びマツがやや強含で推移、広葉樹は5、6月のやや強保合が7月には保合に。

モニターからのコメント

(原木荷動き)・スギ・ヒノキ原木は労働者の減、時期的に悪くなり出材減を予想、マツ原木は出材がほとんどない、広葉樹は専属業者がおらず自伐業者、支障木入荷で変動ない。針葉樹チップ使用減の製紙会社もあるが全体的に消費は横ばい。いずれの樹種も入荷減で在庫減少。・スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹原木ともに仕入・消費とも良好で在庫は横ばい。・4、5月とも天候に恵まれ順調に入荷。在庫は、スギ3.0カ月、マツ3.5カ月及び広葉樹3.0カ月分。・6月頃からシステム販売分入荷で増加、マツ及び広葉樹は支障木主体に変わらず入荷。間伐材発電用は単価折り合わず生産止まったまま、製紙用は年次点検のため生産減、広葉樹はいつも通り。スギ・ヒノキ間伐材は全て発電用に計画的に在庫、一般材及び広葉樹在庫は変わらず。

・バイオ用のスギ・ヒノキは仕入れ増加しているが生産はなし。・スギ原木はバイオマス向け集材のため入荷激減で大変苦勞、出材は農業関係者多く農繁期の5、6月は出材減少。製紙会社の定期修理のためチップ受け入れ停止で新聞用紙用のマツチップを出荷予定。・4月は雪害木多く入ってきた。マツ60%、スギ40%の割合で消費。在庫はあまり減らない。・スギ原木の荷動きは活発であるが生産に伴った原木仕入れを行っている、広葉樹も同様。スギの消費は注文に応じた生産、広葉樹も計画に基づく生産を行っている。・広葉樹立木在庫減少に伴い入荷少ない。各社とも在庫不足で原木高が懸念される。昨年よりも在庫の減少が顕著。・4、5月に広葉樹の仕入れが増加し、その分針葉樹原料が不足になった。5月の消費は横ばいだが、6月に製紙会社の機械点検が入り長期の休みとなるので減少と見込まれる。・スギ・ヒノキ及び広葉樹の仕入・消費はあまり変化ないが、田植え、梅雨の影響で在庫減少を予想。・針葉樹原木は、中国向け輸出の引き合い強い、FIT発電用に流れている、製紙会社針葉樹チップ増集荷に伴い価格値上げの動きがある。針葉樹チップ増産二都もない針葉樹丸太使用量増加。針葉樹は入荷減、在庫減少、広葉樹は入荷増、在庫増加。

- (原木価格) ・いずれの樹種も変動なし。
- ・変動なし。
 - ・いずれの樹種も売値に連動し、若干の値上げ。
 - ・3月に間伐材等の単価が大幅に上がってからは変わらず、一般材は少なくなっており少し上げ、広葉樹は変化なし。
 - ・広葉樹は原木不足により強含みの価格。
 - ・4月に値上げがあったので当面このまま。
 - ・スギ・ヒノキ及び広葉樹は消費税分のみ上げ。
 - ・針葉樹丸太は、FIT及び製紙会社の針葉樹チップ増集荷、更には中国バイヤーによるスギ買付情報等により価格上昇。

26年5月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	6月	7月
生産動向	スギ・ヒノキ	0.0	0.0	△ 12.5
	マツ類	0.0	13.6	△ 13.6
	広葉樹	△ 10.0	△ 30.0	△ 13.3
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 4.2	0.0	△ 4.2
	マツ類	4.2	12.5	4.2
	広葉樹	0.0	△ 21.9	△ 9.4
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 23.1	△ 23.1	△ 23.1
	マツ類	△ 27.3	△ 22.7	△ 31.8
	広葉樹	△ 28.6	△ 28.6	△ 28.6

スギ・ヒノキチップは5,6月の横ばいが7月には減少に、マツは5月の横ばいが6月の増加を経て7月には減少に、広葉樹チップの生産は減少傾向で推移、。

スギ・ヒノキチップの出荷は微減ないし横ばいで推移、マツは微増ないし増加傾向で推移、広葉樹は5月の横ばいが6,7月は減少に。

在庫は全ての品目において減少傾向で推移。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)

品目	26/5月	6月	7月
スギ・ヒノキ類	10.7	0.0	0.0
マツ類	12.5	0.0	0.0
広葉樹	12.5	0.0	0.0

チップ価格は全ての品目において5月の一部での値上げ後、横ばいで推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き) ・原木入荷の状況で生産に変動あるかもしれないが、集荷できれば、製紙会社により多少異なるが総体的には横ばい、ボード及び燃料も安定しており生産横ばい。出荷も横ばい。入荷減で在庫は減少。

- ・いずれの樹種も生産・出荷・在庫とも変動なし。
- ・針葉樹チップの生産・出荷は製紙会社の年次点検で減、広葉樹は他社振り替え分等で変化なし。チップの在庫はない。
- ・バイオ用のスギ・ヒノキチップは生産、出荷はなく、在庫が増加。
- ・スギチップは飼料・敷料用で注文に応じて生産・出荷、広葉樹は計画に沿った生産、出荷は若干増えたが、原木入荷に見合った出荷。
- ・広葉樹チップは製紙会社のチップ不足で増産要請あるが土場在庫を見ながらの生産。石油高騰でトラック運賃の値上がり始まる。チップ在庫はない。
- ・スギ・ヒノキ及び広葉樹の生産・出荷はあまり変化ないが、田植え、梅雨の影響で在庫減少を予想。
- ・針葉樹チップは各製紙会社が増集荷に動いており、生産量増加、ピンチップは製紙、ボード友に使用量減少、6月の定期修理に向けて生産調整中。針葉樹チップは製紙会社からの要請もあり出荷増、在庫減。

(木材チップ価格) ・4月に値上げがあったので当面このまま。

- ・広葉樹チップ変わらず。
- ・広葉樹チップは50銭の値上げ。
- ・全ての樹種で変動なし。
- ・一部製紙会社でチップ単価値上げあり。
- ・スギ・ヒノキは丸太価格上昇分を考慮してもらい4月にわずかに上がっている。広葉樹は変化なし。
- ・スギ・ヒノキ及び広葉樹は消費税分のみ上げ。
- ・針葉樹チップは4月値上げ以降横ばい、広葉樹チップも横ばい。